

合企業体などの視点からも検討される。そこからモンドラゴン・モデルは、企業総体としてコミュニティに貢献すべき点や、人間の向上のために資本は労働に従属させることが示される。最後に、モンドラゴン・モデルは他の社会に移転しえることが主張される。

第6章「バレンシアの実験」では、上のモデル再現の例としてバレンシアにおける試みが紹介される。ここでは、アリスメンディアリエタやモンドラゴン協同組合の指導によって、1996年には11の協同組合企業からなるコミュニティ協同組合企業グループが形成されている。このグループは基本原則としてモンドラゴンと同様の価値を掲げている。

第7章「北アメリカのかすかな光」では、カナダおよびメキシコにおけるコミュニティ開発の実験を紹介している。カナダでは6つの事例が紹介される。また開発で重要な役割を果たす金融組織の6つの実例があげられている。メキシコの事例としては、ユカタン半島がカナダと同様の地域問題を抱えているとして取り上げられている。

第8章「コミュニティ経済の解決策 - 実践を反映して -」では、コミュニティ経済開発のための指針が、グループの形成、既存のモデルの調査・検討、事業の機会の確認、機構の組織化、諸資源の探索、行動開始、という6段階として解説されている。

3. 評価

マクラウド氏は本書を通じて、地域コミュニティへに対し協同組合がどのような意味で重要かをモンドラゴンを通して分析し、モンドラゴンモデルは再現可能であることを例証

し、コミュニティ開発には人間性に関わる価値と効率的な発展性の両方が重要であることを強調し、開発手法として段階的手順を示しているが、これらの点は本書の特徴であると共に優れた部分であるといえる。カトリックの労働観とアリスメンディアリエタの思想が関係あることは推測されていたが、この点を明確にしたのも貢献である。

コミュニティの破壊が大きい国や地域ほどそれを再生するニーズは高まる。その点で日本社会でもマクラウド氏が示したようなコミュニティ・ビジネスの開発手法の必要性がますます高まるだろう。各地で広がっている地域通貨の導入やNPO、ワーカーズ・コープなどの設立は、人々の間に「信頼」や「協力」を再生したいという願いの現れである。中川雄一郎氏の訳はいつもながら大変読みやすく本書の普及に貢献することと思われる。

